混合交通を観察する
DOCUMENT EYE ●series―251

夜間に横断歩道以外を渡る歩行者を観察する

●観察場所／東京都杉並区阿佐谷南１丁目「中杉通り」周辺
●観察日／９月25日（火曜日）　●天候／曇り
●観察時間／17:30～18:30　●観察者／３名

夜間、横断禁止の道路を歩行者は渡っているか？

ベビーカーを押しながら横断。高齢者は重たそうな荷物を持って横断をしている

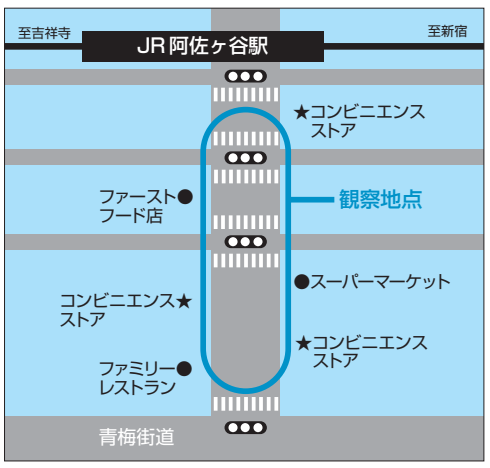
Q1 横断歩道以外の場所を横断する歩行者が最も多い年代は何歳でしょうか？

Why

自動車直進中に死亡した歩行者の法令違反トップは道路横断時の違反！

平成22年に発生した歩行者死者157３人のうち、自動車が直進中に死亡した歩行者は１３１０人。このうち、歩行者に法令違反があった割合は７割を占めている。法令違反の内訳をみると、「車両の直前・直後の道路横断」や「横断歩道外横断」などの道路横断時の違反（73％）が最も多い。また同じ平成22年における歩行中の交通事故死者は昼間５３３人に対して、夜間が１１８１人とおよそ２倍となっている。そこで今回は、車両から歩行者の存在が見えにくい薄暮時から日没後、横断歩道以外を渡る歩行者を観察した。

観察場所は東京・杉並にあるＪＲ阿佐ケ谷駅から南にのびる「中杉通り」。駅前から青梅街道までおよそ５００ｍの直線道路だ。片側１車線道路の両脇にはパーキングメーターによる駐車スペースが設けられ、歩道には「横断禁止」の標識が数カ所設置されていた。道路を通過する車両のスピードは40km／h前後とやや速い印象を受けた。歩道には自転車通行可の標識が設置されており、自転車は歩行者をすり抜けながら走行する姿が目立った。



Advice

夜間は目立つ色の服装と反射材を着用し指定の場所で横断を！

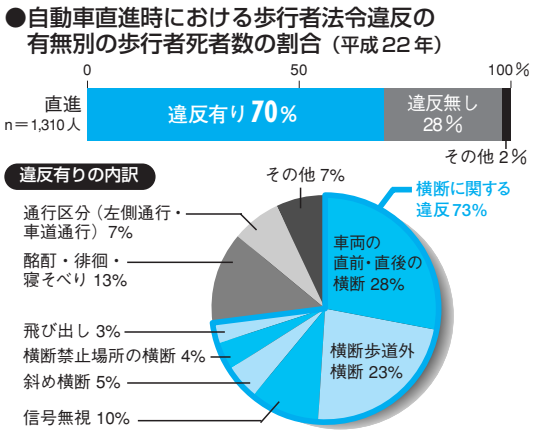
観察を開始したのは帰宅ラッシュが始まる時間帯。歩行者と自転車の流れは青梅街道から駅に向かっていた。青梅街道から駅までの距離は約５００ｍ、見通しのよい直線道路だ。駅までの道のりには信号が設置された横断歩道が４カ所あった。

歩行者は駅に向かいながら、信号で車両の往来がないタイミングで車道を横断していた。走行する車両が多い場合は、車両が通過するまで待ってから横断していた。

横断歩道以外の場所で横断する自転車のほとんどは、あらかじめ車道に移動し、後方確認をしてから横断していた。また、車道を一時的に逆走しながら対向車線に移動する自転車も見受けられた。

一方、車両側は歩行者が横断歩道以外の場所から横断しようとしても、スピードを緩める様子は見られなかった。高齢者が道の真ん中で立ち往生をしていたが、車両は躊躇なく通過していた。

●自動車直進時における歩行者法令違反の有無別の歩行者死者数の割合（平成22年）



※出典：公益財団法人 交通事故総合分析センター「イタルダ・インフォメーション」No.94

A1 実際の観察から

★Ｑ１の回答
114人中、105人（92.1％）が成人

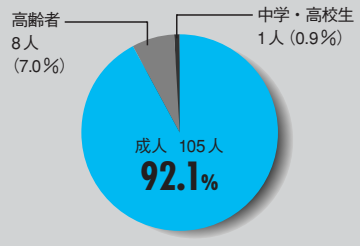
ゆっくり斜め横断する女性たち

観察中に横断歩道以外の場所で横断した歩行者は合計114人。そのうち成人（19歳～64歳）が９割以上を占めた。幼児、中学・高校生で横断したのは１名のみ。自転車の横断についても、９割が成人と高齢者だった。交通ルールを守っていないのは、幼児や中学・高校生に範をみせるべき大人の年代だった。

実際の観察では、目の前の店舗に行くために目の前の道をすぐ横断してしまったり、運送会社のドライバーが車両を路上駐車して横断歩道を迂回せず届け先に向かったりする姿が見られた。

配達物を抱えて道路を斜め横断

●横断歩道以外の場所を横断した人の年代



薄暮時から夜間は、運転者から歩行者の存在が認識しづらい時間帯である。しかし、反射材（反射材付のズボン）を着用していた歩行者は、観察した１１４人中１人にとどまった。通行車両も、歩行者の死亡事故低減につながる薄暮時のライトオンする車両は見当たらず、日没後にライトを点灯させる場合が大半だった。

観察場所には「横断禁止」の標識が設置されていたが、歩行者は堂々と道路を横断していた。横断歩道など指定場所以外の道路の横断は、事故発生の可能性が高く、危険なのでやめるべきだ。夜間、歩行者や自転車は車両から存在を見落とされやすいため白や黄色の目立つ色の服装、反射材を身につけることが事故防止につながる。また、運転者は歩行者や自転車の急な飛び出しを予測し、速度を落としたり、安全確認をしっかり行いながら注意して運転するとともに、早めのライトオンを心がける必要がある。

車両が接近していてもゆっくり歩く歩行者

Q2 「左右確認をしない」「斜め横断をした」歩行者はどれくらいいたでしょう？

A2 実際の観察から

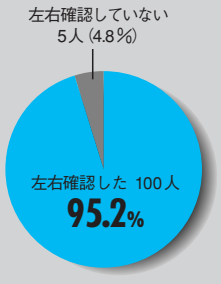
★Ｑ２の回答
歩行者の「左右確認なし」は１割未満（4・39％）「斜め横断」は１割強（15・8％）

車道を横断することは危険だと十分理解しているためか、横断を開始する前にしっかり左右確認と車両の有無を確かめてから横断する歩行者が多かった。自転車は後方と対向車線の状況を把握してから道路を横断していた。車両が近づいてきた際には無理に渡ることはせず、安全が確認されてから渡ることが多かった。

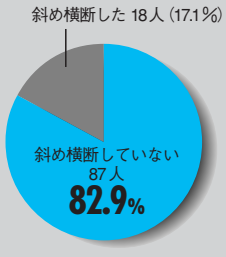
歩行者は目的の場所への近道として道路を横断することが多く、斜め横断は少なかった。自転車は走行中に道路を横断するため、必然的に斜め横断になっていた。

反対車線を逆走してから道路を横断する自転車

●横断歩道以外で道路を横断した歩行者の左右確認実施の割合



●横断歩道以外で道路を横断した歩行者の斜め横断の割合



●横断歩道以外で道路を横断した歩行者・自転車

	歩行者		小計	自転車		小計
	男	女		男	女	
子ども	0	0	0	0	0	0
中学・高校生	1	0	1	1	0	1
成人	65	40	105	11	6	17
高齢者	5	3	8	5	0	5
小計	71	43	114	17	6	23

※子ども（小学生以下）、中学・高校生、成人（19～64歳）、高齢者（65歳以上）の判断は観察者の見解による

PRINTED WITH SOY INK 本冊子は再生紙に植物インキで印刷しています。

次号は 2012年12月14日発行予定となります。

（SJクイズの解答：Q1①、Q2③、Q3①）